

♪ 2022年度 *poco a poco* ♪

Nr. 17 2022年 11月21日(月)

文責:プファイル・辰巳

もうすぐアドヴェント

教会暦では11月が1年の終わりに当たり、ドイツではアドヴェント(待降節)の前に、お墓参りを済ませる習慣があります。カトリックの方は11月2日の *Allerseelen* (万霊節)、プロテスタントの方はアドヴェント前の最後の日曜日が *Totensonntag* (死者の日曜日)となり、今年

は11月20日でした。その他にも *Volkstrauertag* (戦没者慰霊の日曜日)、*Buß- und Betttag* (懺悔と祈りの日)などもあります。亡くなった方々のことを思い、墓参を済ませ、お祈りを捧げた後は、いよいよ楽しいアドヴェントがやってきます。

今度の日曜日が第1アドヴェントとなり、クリスマスまでの4週間余りは、プレゼントを用意したり、クリスマスマルクトを訪ねたりと、忙しいながらも心浮き立つような毎日になりますね。

クリスマスが来れば学校も冬休み。それまでの数週間、健康や安全に気をつけながら、元気に過ごしましょう!

音楽こぼれ話 < 死者の月:11月に寄せて

「レクイエム」とは? >

「レクイエム」という言葉は元ラテン語で「安息」という意味があります。クラシック音楽ではミサ曲のひとつで、日本語では「鎮魂歌」と訳されていたこともあります。最近では「死者のためのミサ曲」と呼ばれることが多いようです。

ミサ曲は数多くの作曲家が手掛けていますが、中でもモーツァルトのレクイエム、ヴェルディのレクイエム、そしてガブリエル・フォーレのレクイエムが「三大レクイエム」と呼



ばれています。その他にもドヴォルザークやサン・サーンスなどのレクイエムもありますし、ブラームスの「ドイツ・レクイエム」、ブリテンの「戦争レクイエム」、そして武満徹の「弦楽のためのレクイエム」など有名なレクイエムはたくさんあります。

レクイエムはミサ曲なので、カトリックの典礼に沿って、「キリエ(憐れみ給え)」「ラクリモーサ(涙の日)」「サンクトゥス(聖なるかな)」「アニュス・デイ(神の子羊)」などの題名を持つ小曲が連なって、ひとつの大曲になります。

モーツァルトはレクイエムのラクリモーサを作曲中に絶筆となりました。死因の謎と相まって、1984年には「アマデウス」という映画が制作され、アカデミー賞やゴールデングローブ賞に輝き、挿入歌としてのレクイエムも話題になりました。

フォーレのレクイエムは短めで、ミサ曲としては欠けている曲がたくさんあります。けれども、ソプラノ・ソロの歌う「ピエ イエズ(慈しみ深きイエス)」や合唱「サンクトゥス」は聴く人々を清らかな天にも昇るような気持ちにさせる名曲が含まれています。秋の芸術鑑賞の一曲としてYoutube などで鑑賞されてはいかがでしょうか。

ミニコンサートについて ~ ご確認ください ~

- ・ミニコンサートの出演は希望制です。クラス発表をする場合も参加は任意です。参加して、子どもたちの演奏の様子を見ていただける機会となれば幸いです。ご家庭の事情や習い事がある場合は無理なさらず、そちらを優先してください。
- ・兄弟姉妹関係のない御家庭には、他の学年の発表を見ていただけないのが残念なのですが、With コロナの中でのコンサート開催ですので、ご理解ください。その代わりと言っては何ですが、ゆったりと鑑賞していただけるのでは、と思っています。
- ・ロビーや各教室で、音楽室の様子を見ていただけるようにしますが、出演が終わった方から速やかに下校していただきますよう、重ねてお願いいたします。特にロビーでは、会場内と同様にお静かにお過ごしく下さい。